

保

小

中

高

一貫教育

く未来を生き抜く力の育成く

本町の教育は保育園から高校までの15年間、連続性、系統性を重視した学びの場の提供と実践を行う「白い森おぐに保小中高一貫教育」を核とし、学校・家庭・地域社会・行政などが協働して「町民総がかりの教育」を目指しています。

今月は、新たに本町の保育園3園が取り組んでいる保育プログラムの作成や小国高校でのマイプロジェクトの学びを夢へと繋げる生徒の活躍から本町教育の取り組みを紹介します。

継続した学び



保小中高一貫教育では、幼児期から一貫して学び続ける教科として「国際・情報」を設定することで、高い学習効果を得ることを目指しています。

「国際」では、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、町内の保育園や認定こども園（以下保育園）で「幼児英語ふれあい事業」を行ってお

り、幼児期から気軽に英語に触れて、楽しむ機会を設けています。また、小学校では、令和2年度から学習指導要領に「外国語活動」（3・4学年）、「外国語（英語）科」（5・6学年）が教科として取り扱われていますが、町では、以前から「国際」として授業を行い、学習効果のさらなる積み上げを図ってきています。さらに「国際」の授業は小学校1・2学年でも展開し、幼児期から切れ目のな



幼児英語ふれあい事業（すみれ保育園・年中児）

特集 保小中高一貫教育～未来を生き抜く力の育成～



「国際」の授業（叶水小学校3・4年生）
英語教育推進員村上裕志さんの問題に答える児童

い取り組みを通じ、保小中高一貫教育15年間の最終校種の小国高校での米国研修旅行や短期留学などへ繋げていきます。一方、これまでの取り組み成果の一つとして近年、町内中学生の実用英語技能検定（実施団体…（公財）日本英語検定協会）の受験率と合格率が向上しており、英語に対する自信の高まりが見られます。

保育プログラム



近年、小学校入学時に子どもが学校の生活に上手くなじめない、いわゆる「小1プロブレム」が全国的に増えてきています。本町では、保小連携コーディネーターを配置して保育園と小学校の情報共有や連携・接続に係る調整を図り対応してきました。

そうした中、さらなる取り組みとして、平成14年度から町の特別支援教育アドバイザーを務める三浦光哉山形大学教授の指導を受け、今年度から町内保育園が「三園連携委員会」を組織し、新たに「2歳（未満）～5歳（年長）の保育プログラム」の作成に着手しています。各年代ごとの子どもに「身に付けてほしい力」などで統一した目標を設定した保育プログラムを全ての保育園



三園連携委員長 五十嵐大二さん
（認定こども園すみれ保育園副園長）

で実施することで、各園の卒園児の到達時点にばらつきが出ることを防ぎ、「小一プログラム」の防止にもつながることが期待されます。三園連携委員会の五十嵐大二委員長（認定こども園すみれ保育園副園長）は「これまでは、

ラムの実践による円滑な小学校への接続を目指し、来年度も引き続き連携による保育プログラム作成に取り組むこととしています。

夢への一歩



チカリキユラム（三園で共通した保育の視点）により保育していましたが、他の保育園がどんな保育をしているかを知る機会がありませんでした。現在は、各園のプログラムに様々な意見を交換してブラッシュアップする形でプログラム作成をしています。新しいことに取り組むことは大変ですが、子どもたちが小学生になって困らないように連携をとっていき、保護者にも安心してもらえるようにしていきたいです。」と保育プログ

探究的な学習を通して創造力を培うとともに、ふるさと小国の自然や文化を愛し、自分を磨きながら積極的に地域社会に貢献しようとする資質・能力を育成するため、校種ごとに地域学習を進めています。

小国高校の地域学習「白い森未来探究学」では、小規模校だからこそできる地域に密着した学習に取り組んでいます。1学年は地域に浸り自己の興味関心を深める「地域文化学」、2学年は個々の課題を設定し実践する「地域実

践学」、そして3学年では、これまでの実践等から新たな提案をする「地域構想学」として、高校と地域がより密着した学びに発展させ、地元への愛着や誇りを醸成して地域活動に積極的に取り組む人材を育てることを目的にしています。

2学年の地域実践学では、生徒一人ひとりが自身自身の興味関心等をテーマにプロジェクトを実行する「マイプロジェクト」に取り組んでおり、この実践により、主体性を持ち、つくりたい未来に向けてアクションを起こす力に身に付けることが期待されます。

このマイプロジェクトでの経験や成果を力に、3年生の高橋陸さんは、4年制大学の芸術学部映像学科・監督コースの「総合型選別試験（※）」に挑戦し、

高橋陸さん
（小国高3年）



見事合格しました。高橋さんは「白い森未来探究学」を未来に繋げる一歩目になると思います。僕は小国町だからこそできる映画の自主制作をマイプロジェクトにしました。元々映画監督になる夢を持っていたのですが、授業の一環として取り組むことで、作品への出演や撮影・上映会場の確保などについて、スムーズに行うことができ、大きなプロジェクトに成長することができました。また、映画に出演する人以外にも数多くの役割が必要なことを知り、協力して

くれる人の重要性も学びました。白い森未来探究学は、小国町に住む様々な分野で活躍するパワーのあるかたがたと出会う良い機会になると思います。」と話してくださいました。

※総合型選別試験

受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式

小国高等学校運営協議会 文部科学大臣表彰を受賞

本年2月、小国高等学校運営協議会と白い森地域学校協働本部が令和4年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。これは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施による、学校運営の改善・強化のみならず、学校を核とした地域づく

りにも効果を上げている取り組みとして、他の模範と認められたものです。

小国高校は平成29年4月に山形県教育委員会が東北地方で初めて学校運営協議会制度を設置し、コミュニティ・スクールとなりました。コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域のかたがたの意見を、学校運営に反映させることで、三者が協働して子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。小国高等学校運営協議会では地域の様々な主体と協働した人材育成と地域活性化・地域創生を目指しています。



小国高等学校運営協議会長の伊藤明芳さんは「協議会では、学校、保護者、地域

のかたから様々な提案が出されます。町内各地をフィールドにした授業に町が所有するバスで移動できるようになったことも、本協議会で出された意見が発端となっていました。どんな場面でもこういった連携が可能なのかを議論し、協働して取り組んでいくことにより、地域の学校としての、きめ細やかな教育に繋がっていくことを期待しています。」と話してくださいました。



小国高等学校運営協議会 伊藤明芳会長
文部科学大臣表彰状を手に

未来を生き抜く 子どもたちの育成



一貫教育の取り組みとして、特別支援教育における早期からのよりきめ細やかな支援や、小学校と中学校、中学校と高校といった校種間での交流・連携、叶水小中と小国小、小国中の交流など、連続性と系統性を重視し、それぞれが連携した学びの場の提供と実践も展開しています。

また、一貫教育とともに本町教育の柱の一つである合同学校運営協議会や地域学校協働活動を中心とした「町民総がかりの学び」の体制づくりに取り組んでいます。

急速に進む少子高齢化に加え、情報化や技術革新、グローバル化の進展、そして価値観の多様化など、社会変化が激しい中、未来社会をたくましく生き抜く人間力を持つ子どもたちの育成に取り組んでいきます。